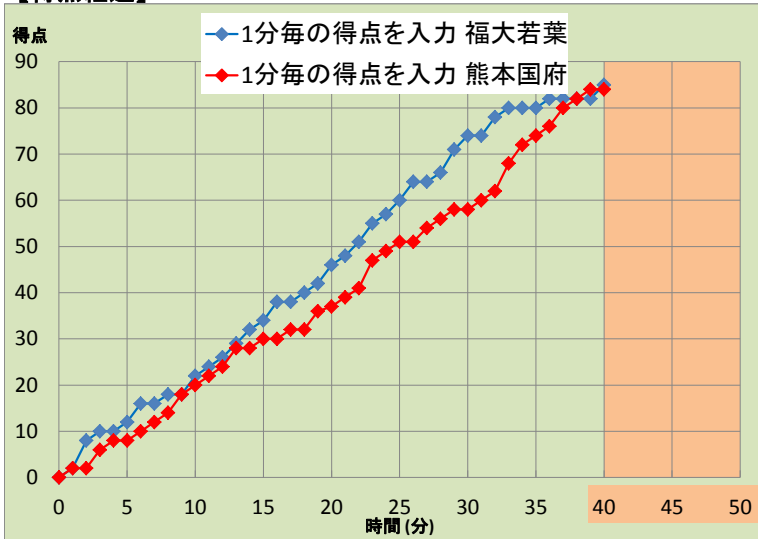


平成29年度 全九州高等学校体育大会 第70回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

【得点経過】



会場	福岡市民体育館	
日時	平成29年6月25日 (日) 9:00	
コート	Aコート	第1試合
カテゴリー	女子	準決勝
主審	川島 司	
第1副審	隈元 ゆみこ	
第2副審	山口 勝真	

TEAM A		TEAM B
福大若葉	85	84 熊本国府
福岡1位		熊本1位
○		●

【BOXスコア】

TEAM A		福大若葉高等学校					
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則	
4	三輪 眞子	6	2			2	
5	嘉数 唯	19	1	7	2	4	
6	中嶋 まひろ	0					
7	篠原 愛佳	15		7	1	3	
8	鬼塚 彩乃	24	2	8	2	4	
9	町田 鈴華	0				1	
10	木多良 菜々	0				2	
11	稲垣 結乃	0					
12	清水 美希	0					
13	中嶋 ゆめ	14	4	1			
14	白土 英恵	0					
15	曾我部 希子	7		2	3	5	
コーチ	池田 憲二						
合計		85	9	25	8	21	

TEAM B		熊本国府高等学校					
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則	
4	松本 美月	10		5		2	
5	松村 愛	0					
6	井上 祐菜	10		4	2	3	
7	川端 日菜子	34		13	8	3	
8	安庭 希海	0					
9	後藤 友花	0					
10	久保下 真帆	24		7	10	4	
11	大村 未来	0					
12	小峰 祐奈	0					
13	鷹木 彩	0					
14	添田 梨裳	0					
15	原田 真尋	6		3			
コーチ	吉村 明						
合計		84	0	32	20	12	

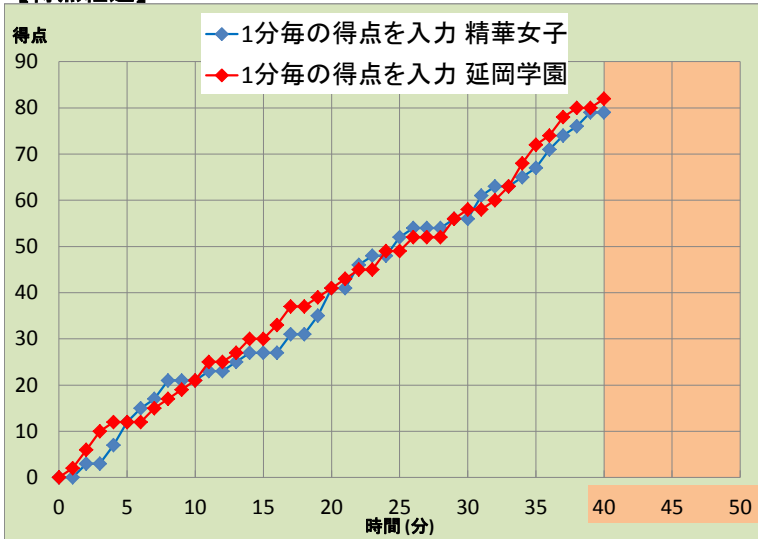
【戦評】

全九州大会準決勝、福大若葉のスターティングメンバーは、#4、#5、#7、#8、#15、熊本国府は、#4、#6、#7、#10、#15で試合開始。第1P福大若葉ジャンプボールから速攻で先制、対する熊本国府は速攻からのジャンプシュートで応戦。ディフェンスは両チームともハーフコートマンツーマンでスタート。福大若葉はアウトサイドの3Pで点数を重ねていき、ディフェンスを広げておきながらインサイド#15の1対1を随所に入れていく。熊本国府は#10のインサイドを起点にハーフコートオフェンスを展開していく。第1P残り3分46秒16-10で福大若葉がリード、熊本国府は1回目のタイムアウトで巻き返しを図ろうとする。直後#10のインターセプトから単独での速攻、#4のミドルシュートで点差を詰める。一進一退の攻防が続き、22-20で第1P終了。第2P福大若葉は開始直後からアウトサイドのシュートが決まり、リードを広げようと試みるが、中盤からシュートが落ち始める。熊本国府は#10を中心にボールを集め、#7のインサイドプレー、カットイン等で点数を重ねていく。第2Pは福大若葉がスティールからのブレイク等で試合を優位に進め、46-37福大若葉リードで前半終了。第3P熊本国府は得点を決めるとオールコートゾーンプレスに変更し、ゲームのリズムを変えようとするが、福大若葉のプレスアタックが功を奏しペイント内での得点を重ねていく。熊本国府は#7の個人技で応戦するが、福大若葉の#13#4の3Pが立て続けに決まり、熊本国府はたまたまずタイムアウト。熊本国府はボールマンプレッシャーのかけ方を変え、福大若葉は得点が停滞。しかし、終盤福大若葉は#13の3Pをきっかけに得点のペースを上げ、74-58で福大若葉リードで第3P終了。第4P福大若葉は#5のミドルシュート、1対1が冴えわたり得点を重ねていき、対する熊本国府は#6#7のカットインプレーで対抗する。福大若葉#15が5ファールで退場し、流れが熊本国府にいき、第3P16点あった差が残り5分で6点差、福大若葉のタイムアウト。しかし、熊本国府の勢いは止まらず、アウトサイド陣の鋭いドライブからの#10への合わせ、オフェンスリバウンドで優位に立つ熊本国府が残り2分で同点に追いつく。1分25秒で熊本国府#7の素晴らしいアシストで逆転。福大若葉残り40秒#13の3Pで逆転。熊本国府タイムアウトを取るが、ミスでシュートまでいくことができず、福大若葉がボールを支配し85-84で福大若葉が勝利。最初から最後まで集中して素晴らしいプレーをした両チームの選手を称えたい。

【戦評記者】 貞包 謙
福岡県バスケットボール協会

平成29年度 全九州高等学校体育大会 第70回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

【得点経過】



会場	福岡市民体育館	
日時	平成29年6月25日 (日) 9:00	
コート	Bコート	第1試合
カテゴリー	女子	準決勝
主審	神丸 一祐	
第1副審	井元 誠	
第2副審	佐田 明美	

TEAM A		TEAM B
精華女子	79	82 延岡学園
福岡2位		宮崎1位
●		○

Score Breakdown:
 21 1st 21
 20 2nd 20
 15 3rd 17
 23 4th 24
 OT

【BOXスコア】

TEAM A		精華女子高等学校					
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則	
4	梶原志保	0				1	
5	織田萌々香	0					
6	清水利祐子	16		8		4	
7	石丸雪乃	14		7		4	
8	屋宜沙弥香	0					
9	長谷川奈央	0					
10	仲里紗々花	2		1		1	
11	矢野聖華	15	3	3		1	
12	樋口鈴乃	18	4	3		1	
13	嵐夏妃	0					
14	三浦舞華	14	2	3	2	2	
15	木村瑞希	0					
コーチ	大上晴司						
合計		79	9	25	2	14	

TEAM B		延岡学園高等学校					
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則	
4	白川万智	19	3	5		1	
5	セック マム ジャー...	8		2	4	1	
6	松村美怜	0					
7	神野海	23		10	3	1	
8	千々岩美菜	10		4	2	1	
9	満井遥	0					
10	塩月琴絵	0					
11	山元さくら	0					
12	稲留玲奈	4		2			
13	山内杏香	0					
14	江藤涼	0					
15	ムホムホ ムロファ...	18		9			
コーチ	内村昌弘						
合計		82	3	32	9	4	

【戦評】

全九州大会準決勝、福岡県2位精華女子対宮崎県1位延岡学園との対戦、スターティングメンバーは、精華女子#4、#6、#7、#12、#14、延岡学園#4、#5、#7、#8、#12で試合開始。第1P両チームともハーフコートのマンツーマンディフェンス。序盤、延岡学園は#15を中心にオフェンスリバウンドをよく拾い、得点を重ねる。精華女子は#14の3ptsによる3点のみに抑えられ、3分タイムアウト。5分、精華女子は#12ジャンプショットで12対12同点に追いつくと、さらに#12が3ptsを沈めて逆転に成功。延岡学園も#4の3ptsで返すと、その後は一進一退の展開となり、21対21の同点で第1P終了。第2P、両チームともミスが少ないバスケットを展開し、常に2〜3点延岡学園がリードする中、6分、延岡学園#4の3ptsで6点差とする。9分、精華女子#12のスティールからのレイアップで4点差となり、延岡学園タイムアウト。延岡学園、1本返すも、精華女子#11が3ptsを2本連続で沈め、41対41の同点で前半終了。第3P、延岡学園は3-2のゾーンディフェンスに対して、精華女子はアウトサイドシュートやファストブレイクで得点を重ねる。延岡学園は#4のインサイドや3ptsで得点。4分、精華女子インサイドの要#7が4つ目のファウルを記録し、ベンチへ。その後延岡学園が逆転し、2点差で最終Pへ。第4P、延岡学園は#15にボールを集め、リードを保つ。精華女子は#7、#11のジャンプショットで応戦するも、高さで勝る延岡学園がリバウンドで優位に立ち、6分半、7点差に開いたところで精華女子タイムアウト。精華女子#12の3ptsで反撃開始。8分半、4点差で精華女子タイムアウト。タイムアウト明け、精華女子#11の3ptsで1点差。延岡学園タイムアウト。延岡学園は#15のインサイドで3点差になり、そのまま試合終了。インサイドで優位に立った延岡学園が接戦を制した。

【戦評記者】

福岡県バスケットボール協会